

2013/11/19

柏の景気情報（平成25年10月分）

柏 商 工 会 議 所

（本件担当） 柏商工会議所 中小企業相談所 経営支援二課
〒277-0011 千葉県柏市東上町7-18
TEL : 04-7162-3305
FAX : 04-7162-3323
URL : <http://www.kashiwa-cci.or.jp>
E-mail : info@kashiwa-cci.or.jp

柏の景気情報（平成25年10月分）

○ 調査期間 : 平成25年10月24日 ~ 10月28

○ 調査対象 : 柏市内157事業所及び組合にヒアリング

＜産業別回収状況＞

調査産業	調査対象数	回答数	回収率
全産業	157	86	54.8%
建設	44	24	54.5%
製造	34	16	47.1%
卸・小売	43	31	72.1%
サービス	36	15	41.7%

○ 調査方法と調査表 : 下記「質問A」をDI値集計し、「質問B」で「業界内のトピック」の記述回答。

質問A

質問事項	回答欄					
	前年同月と比較した 今月の水準			今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通し		
a.売上高 (出荷高)	1 増加	2 不変	3 減少	1 増加	2 不変	3 減少
b.採算 (経常利益ベース)	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
c.仕入単価	1 下落	2 不変	3 上昇	1 下落	2 不変	3 上昇
d.従業員	1 不足	2 適正	3 過剰	1 不足	2 適正	3 過剰
e.業況	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化
f.資金繰り	1 好転	2 不変	3 悪化	1 好転	2 不変	3 悪化

質問B 業界内のトピック(記述式)

$$DI値 = 1 \text{ 増加他の回答割合} - 3 \text{ 減少他の回答割合}$$

※ DI値(景況判断指数)について

DI値は、売上、採算、業況などの項目についての判断状況を表す。0(ゼロ)を基準として、プラスの値で景気の上向きを表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

※ DI値と景気の概況

DI ≥ 50	50 > DI ≥ 25	25 > DI ≥ 0	0 > DI ≥ ▲25	▲25 > DI
特に好調	好調	まあまあ	不振	極めて不振

【平成25年10月の調査結果のポイント】

＜業況DIは回復基調も業種にばらつき 見通しは改善＞

○10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12.7(前月水準▲22.5)となり、マイナス幅が9.8ポイント縮小した。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、建設業△25.0(同△7.6)である。マイナスからプラスに転じた業種は、製造業±0.0(同▲22.2)で、プラス幅が22.2ポイントと大幅に拡大した。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲41.9(同▲50.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲26.6(同▲17.6)である。

【建設業】からは「通常仕上げ業者は春が仕事が少ないが、昨年は10月が少なかった為、対前年比の売り上げは増加している。特に今年が良いという意味ではない。」(石工れんがタイルブロック工事業)、「小口ではあるが仕事量は増加してきた。景気好転はどの企業も末端の経営努力によるものと思う。アベノミクスや政策の影響が出たとは考えにくい。」(電気工事業)、「特に関東近郊のマンション等の大規模修繕工事が非常に多く、塗装・防水の材料メーカーも製造が間に合わないと言っている。」(塗装工事業)、「物売りでなく生産・施工全面の会社では、急な高受注は意味がなく、又、来年の4月からの消費税8%の落ち込みが心配です。」(一般土木建築工事業)などのコメントが寄せられた。

【製造業】からは「福島原発関係の案件が増えてきた。」(特殊産業用機械)、「急いでいたはずがスローダウンしたり、諦めかけていた件が急浮上したり、納入間近に仕様追加があったり、とにかく変化が激しい。ユーザー自身も競争激化の中、市場要求そのものも急変しているものと思われる。」(その他の機械・同部品製造業)、「9月新発売商品があり、前年比売上大幅アップ」(酒類製造業)、「アベノミクスによる楽観的経済状況も実質的には厳しく、今までの方便では通用しない。個に力が付かず、零細企業は身を小さくしてこの冬を乗り切り、進む方向を見極める時期だと思う。」(印刷業)などのコメントが寄せられた。

【卸小売業】からは、「中盤以降は台風影響・悪天候により動員苦戦。」(百貨店)、「市内でも出店していた婦人服チェーン店が倒産したりと業界全体が冷え込んでいる。秋物は当社では早くもセールで処分した。利益率は低下。」(婦人・子供服小売業)、「昨年3日間開催したキャンペーンは今年5日(土)6日(日)の2日間に縮小したものの、2日間累計対比では2桁伸長し、中旬までは前年を上回る推移となった。朝夕の気温低下も後押ししブーツやアウターが動き盛り返しをみせた。」(その他の各種商品小売業)、「年末のイベントに向けての期待感が薄い。前年の売上水準を保つよう努める。」(菓子・パン小売業)、「地域の住民の高齢化により商店街の様態は大変様変わりし商店街も淋しくなった。商店街近くには大型店が多く出店して若者は大型店のみで生活している有様で、昔からの商店は閉店となっている。」(食肉小売業)、「販売量の低下と仕入れ価格高騰のあおりを受け、9月の月決算は大幅赤字とたたき落とされた。」(燃料小売業)などのコメントが寄せられた。

【サービス業】からは「年末に向けて、11月11日から16日に開業31周年事業の実施、食材の値上がりがあり。客数の減少、客単価下落。宴会等の予算が下がりつつあり。」(酒場・ビヤホール)、「宿泊は柏周辺のホテルがWeb販売の比率が上がり、近隣ホテルの客単価を下げる要因となっているがエリア全体の稼働が伸び売り上げ、収益を維持することが出来た。宴会は昨年実績を維持。」(ホテル)、「10月は台風の影響あり苦戦。11月は昨年度並みをキープ(個人・法人共に。国内も海外も。)12月・1月は個人はほぼ前年並みまで来ているが、法人需要の伸びが今ひとつ。」(旅行業)、「お客様からの問い合わせは増えています。但し、仕入価額・リフォーム費は上昇しているの、採算は悪化しています。」(不動産管理業)、「不動産賃貸業は安定しています。逆に言えば、新しい物件への移動はさけて、ムダな支出はおさえている感があります。」(不動産賃貸業)、「時間貸し駐車場を運営しているが打ち止め料金等の価格競争が一部で加熱気味、採算悪化、採算割れの間所も出ている模様。」(不動産賃貸・管理業)、「業況はマイナス、先行き不安が続いています。年度末追い込み工事受注を期待している。」(ソフトウェア業)などのコメントが寄せられた。

◎消費税

各業種から、「リフォームも来年3月までを見据えて、受注が順調に来ている。(消費税の関係)」(一般土木建築工事業)、「消費税8%が決まってから、かけ込み需要なのか注文が増加。」(内装工事業)。「住宅業界(特に町場工務店)は長く不況が続いていた為にかけ込み(消費税の)需要が多くなった」(一般土木建築工事業)、「消費税アップ前の駆け込み需要を見込むべきか否か、判断が難しいところがある。」(その他の機械・同部品製造業)、「高額品については宝飾・時計・美術工芸品などが消費税増税決定影響により動きが活発になってきた。」(百貨店)、「駅近賃貸住宅、テナント賃料安定、入居状況良好です。懸念は、光熱費の高騰と消費税の今後の引き上げの影響です。」(不動産賃貸・管理業)などのコメントが寄せられた。

◎天候の影響

各業種から、「序盤は開店40周年記念の仕掛けが奏功し好調に推移も。気温の上昇もあり、ジャケット、コートなど重衣料が低迷。」(百貨店)、「10月度初旬は、悪天候だったこともあり、低調な出足となった。」(その他の各種商品小売業)、「台風等、悪天候が多く客足に響いた。」(その他の各種商品小売業)、「悪天候の影響もあり、客数は減少しているが、買い上げ点数のアップで売り上げはなんとか昨年を保っている状況である。」(各種食料品小売業)、「客数は微増、単価若干落ち、売上げは前年並み。天候不順の影響もあった。」(その他の各種商品小売業)、「今月は台風の影響が青果物を直撃している品目があり、ほうれん草、小松菜など葉物類が品薄となり、入荷が減少し、価格が高騰しています。」(食料・飲料卸売業)などのコメントが寄せられた。

◎人手不足

各業種から、「足場材や建築作業員がマンション工事に取られ、受注があっても工事が出来ない可能性が出てくる。」(塗装工事業)、「従業員・作業員不足なので、今後職人不足で大変になりそう。」(その他の職別工事業)、「住宅業界(特に町場工務店)は長く不況が続いていた為にかけ込み(消費税の)需要が多くなったとしても、協力業者が少なくなってしまう今、現状に合せ受注高を喜んでる事も出来ず大変難しい問題になっています。」(一般土木建築工事業)などのコメントが寄せられた。

	全産業	建設	製造	卸・小売	サービス
5月	▲18.6	△12.5	▲27.7	▲51.5	△12.5
6月	▲20.2	▲18.1	△11.7	▲44.1	▲6.2
7月	▲17.2	△3.8	▲23.5	▲41.6	△14.2
8月	▲21.5	△3.8	▲17.6	▲45.4	▲17.6
9月	▲22.5	△7.6	▲22.2	▲50.0	▲17.6
10月	▲12.7	△25.0	±0.0	▲41.9	▲26.6
見通し	▲3.4	△25.0	△12.5	▲32.2	▲6.6

見通しは今月の水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI

【平成25年10月の業況についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲12.7(前月水準▲22.5)となり、マイナス幅が9.8ポイント縮小した。

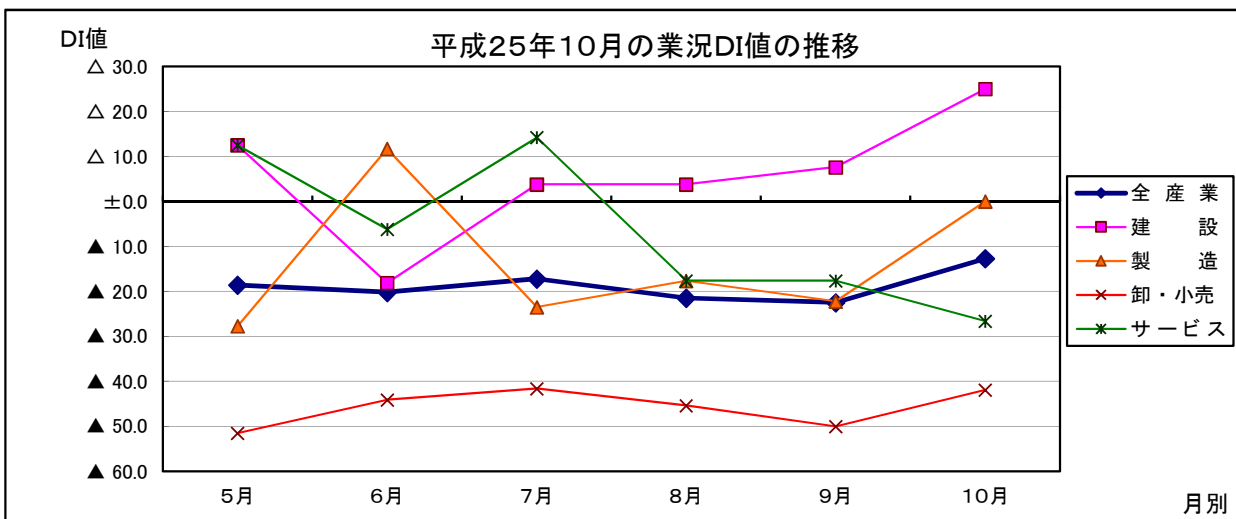
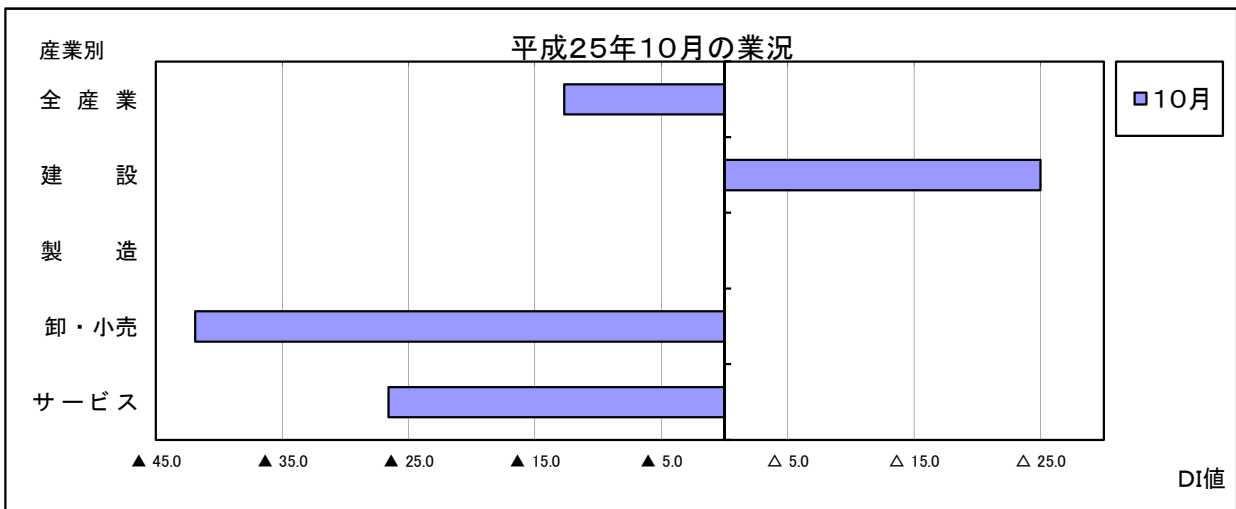
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、建設業△25.0(同△7.6)である。マイナスからプラスに転じた業種は、製造業±0.0(同▲22.2)で、プラス幅が22.2ポイントと大幅に拡大した。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲41.9(同▲50.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲26.6(同▲17.6)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲3.4(前月水準▲8.6)となり、マイナス幅が5.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△25.0(同△15.3)である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△12.5(同▲11.1)で、プラス幅が23.6ポイントと大幅に拡大する見通しである。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、サービス業▲6.6(同±0.0)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲32.2(同▲31.2)である。

平成25年10月業況DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲18.6	▲20.2	▲17.2	▲21.5	▲22.5	▲12.7	▲3.4(▲8.6)
建設	△12.5	▲18.1	△3.8	△3.8	△7.6	△25.0	△25.0(△15.3)
製造	▲27.7	△11.7	▲23.5	▲17.6	▲22.2	±0.0	△12.5(▲11.1)
卸・小売	▲51.5	▲44.1	▲41.6	▲45.4	▲50.0	▲41.9	▲32.2(▲31.2)
サービス	△12.5	▲6.2	△14.2	▲17.6	▲17.6	▲26.6	▲6.6(±0.0)



【平成25年10月の売上についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲5.8(前月水準▲13.9)となり、マイナス幅が8.1ポイント縮小した。

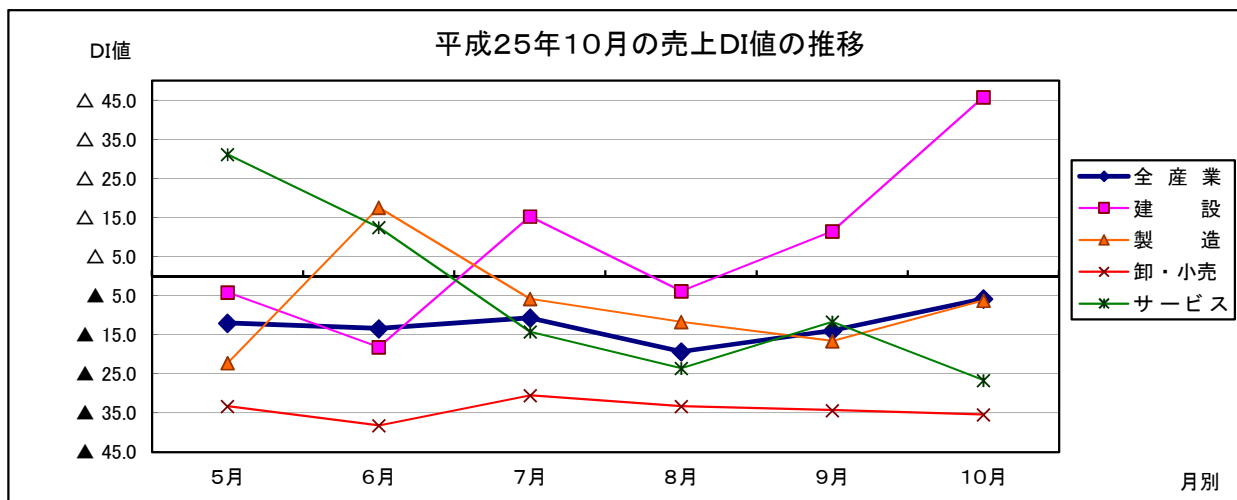
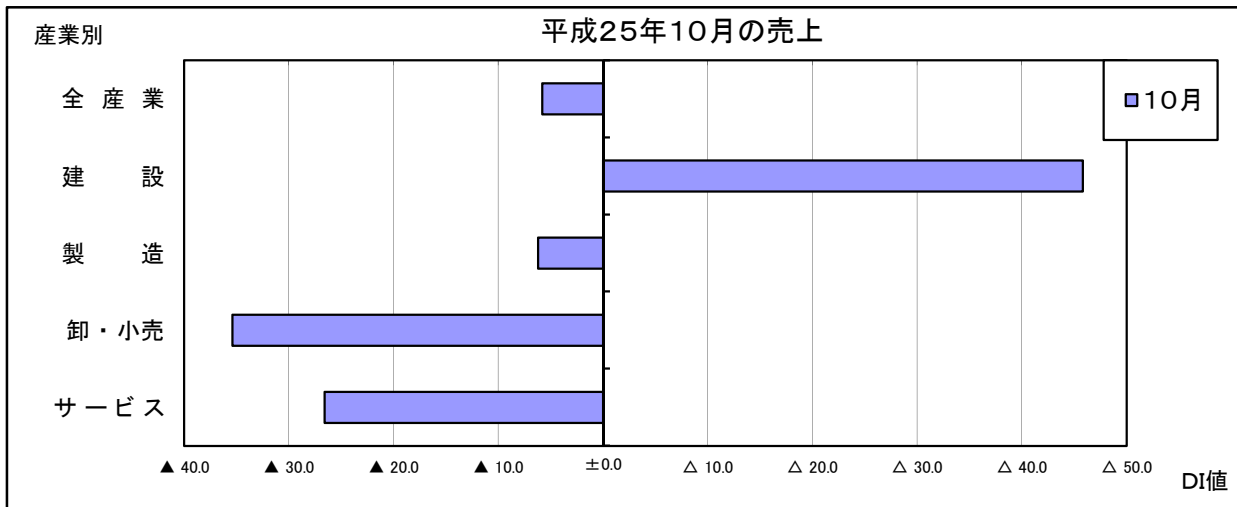
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、建設業△45.8(同△11.5)で、プラス幅が△34.3ポイントと大幅に拡大した。マイナス幅が縮小した業種は、製造業▲6.2(同▲16.6)である。マイナス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、サービス業▲26.6(同▲11.7)、卸小売業▲35.4(同▲34.3)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、△5.8(前月水準△3.2)となり、プラス幅が2.6ポイント拡大する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、建設業△37.5(同△26.9)である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、サービス業△13.3(同▲5.8)である。プラス幅が縮小する見通しの業種は、製造業△6.2(同△11.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲22.5(同▲15.6)である。

平成25年10月の売上DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲12.0	▲13.4	▲10.7	▲19.3	▲13.9	▲5.8	△5.8(△3.2)
建設	▲4.1	▲18.1	△15.3	▲3.8	△11.5	△45.8	△37.5(△26.9)
製造	▲22.2	△17.6	▲5.8	▲11.7	▲16.6	▲6.2	△6.2(△11.1)
卸・小売	▲33.3	▲38.2	▲30.5	▲33.3	▲34.3	▲35.4	▲22.5(▲15.6)
サービス	△31.2	△12.5	▲14.2	▲23.5	▲11.7	▲26.6	△13.3(▲5.8)



【平成25年10月の採算についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲17.4(前月水準▲27.9)となり、マイナス幅が10.5ポイント拡大した。

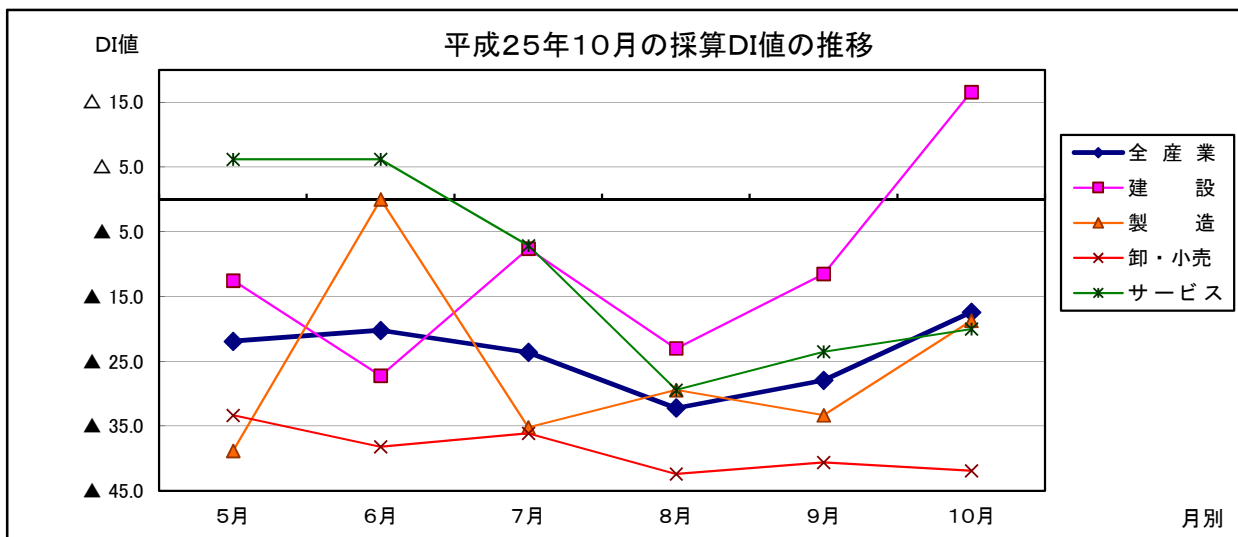
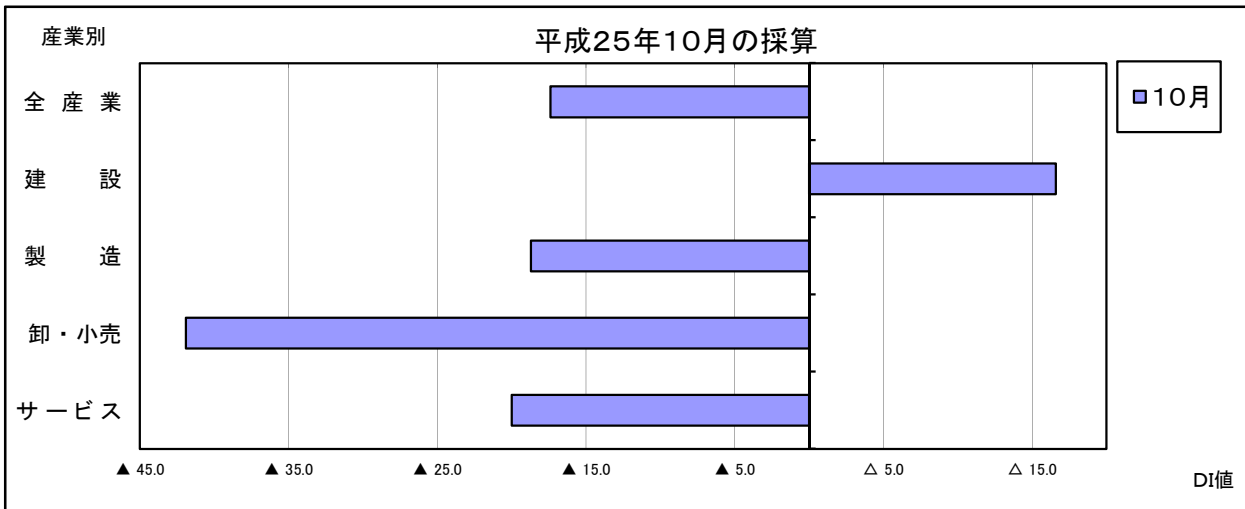
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、建設業△16.6(同▲11.5)で、プラス幅が△28.1ポイントと大幅に拡大した。マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、製造業▲18.7(同▲33.3)、サービス業▲20.0(同▲23.5)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲41.9(同▲40.6)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲12.7(前月水準▲15.0)となり、マイナス幅が2.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、幅の大きい順に建設業△8.3(同▲3.8)、サービス業±0.0(同▲11.7)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲38.7(同▲31.2)、製造業▲6.2(同▲5.5)である。

平成25年10月の採算DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲21.9	▲20.2	▲23.6	▲32.2	▲27.9	▲17.4	▲12.7(▲15.0)
建設	▲12.5	▲27.2	▲7.6	▲23.0	▲11.5	△16.6	△8.3(▲3.8)
製造	▲38.8	±0.0	▲35.2	▲29.4	▲33.3	▲18.7	▲6.2(▲5.5)
卸・小売	▲33.3	▲38.2	▲36.1	▲42.4	▲40.6	▲41.9	▲38.7(▲31.2)
サービス	△6.2	△6.2	▲7.1	▲29.4	▲23.5	▲20.0	±0.0(▲11.7)



【平成25年10月の仕入単価についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲50.0(前月水準▲51.6)となり、マイナス幅が1.6ポイント縮小した。

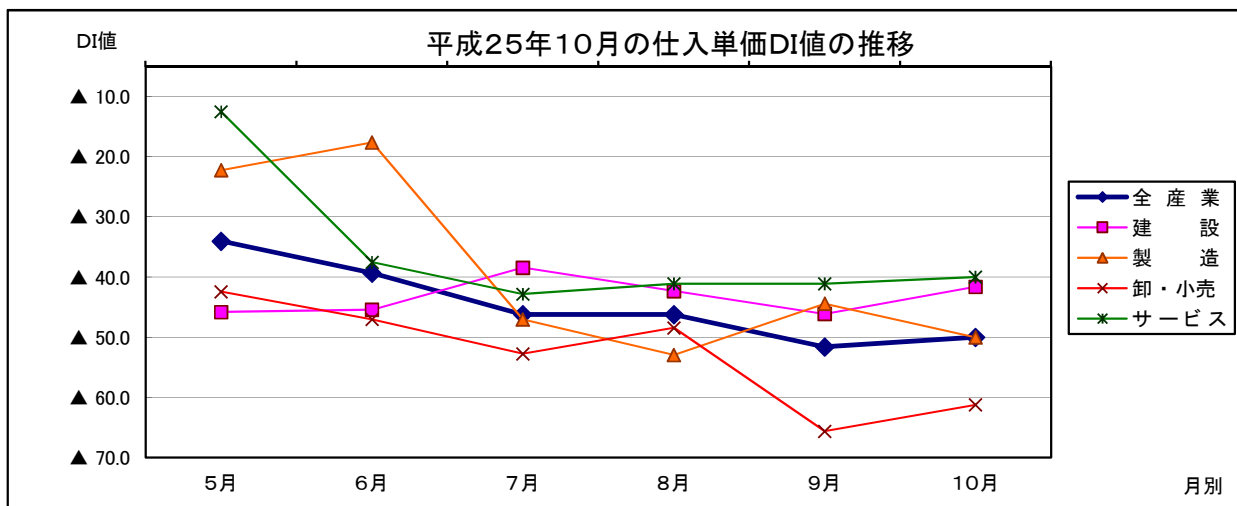
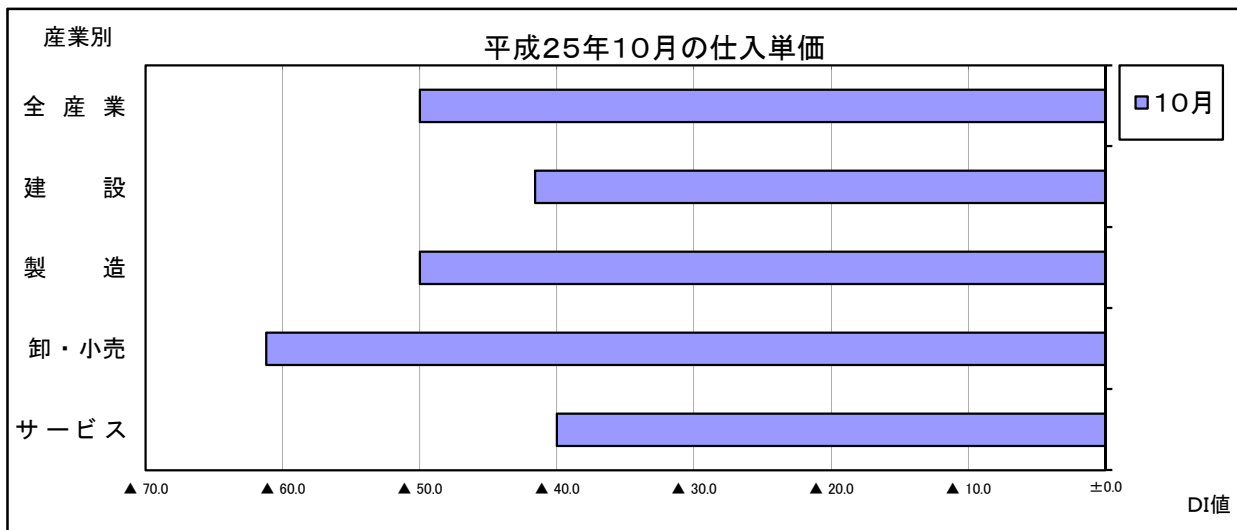
業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小した業種は、幅の大きい順に、建設業▲41.6(同▲46.1)、卸小売業▲61.2(同▲65.6)、サービス業▲40.0(同▲41.1)ある。マイナス幅が拡大した業種は、製造業▲50.0(同▲44.4)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲39.5(前月水準▲44.0)となり、マイナス幅が4.5ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、マイナス幅が縮小する見通しの業種は、幅の大きい順に、卸小売業▲48.3(同▲56.2)、製造業▲31.2(同▲38.8)、建設業▲37.5(同▲42.3)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、サービス業▲33.3(同▲29.4)である。

平成25年10月の仕入単価DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲34.0	▲39.3	▲46.2	▲46.2	▲51.6	▲50.0	▲39.5(▲44.0)
建設	▲45.8	▲45.4	▲38.4	▲42.3	▲46.1	▲41.6	▲37.5(▲42.3)
製造	▲22.2	▲17.6	▲47.0	▲52.9	▲44.4	▲50.0	▲31.2(▲38.8)
卸・小売	▲42.4	▲47.0	▲52.7	▲48.4	▲65.6	▲61.2	▲48.3(▲56.2)
サービス	▲12.5	▲37.5	▲42.8	▲41.1	▲41.1	▲40.0	▲33.3(▲29.4)



【平成25年10月の従業員についての状況】

○ 10月の全産業合計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、△8.1(前月水準△2.1)となり、プラス幅が6.0ポイント拡大した。

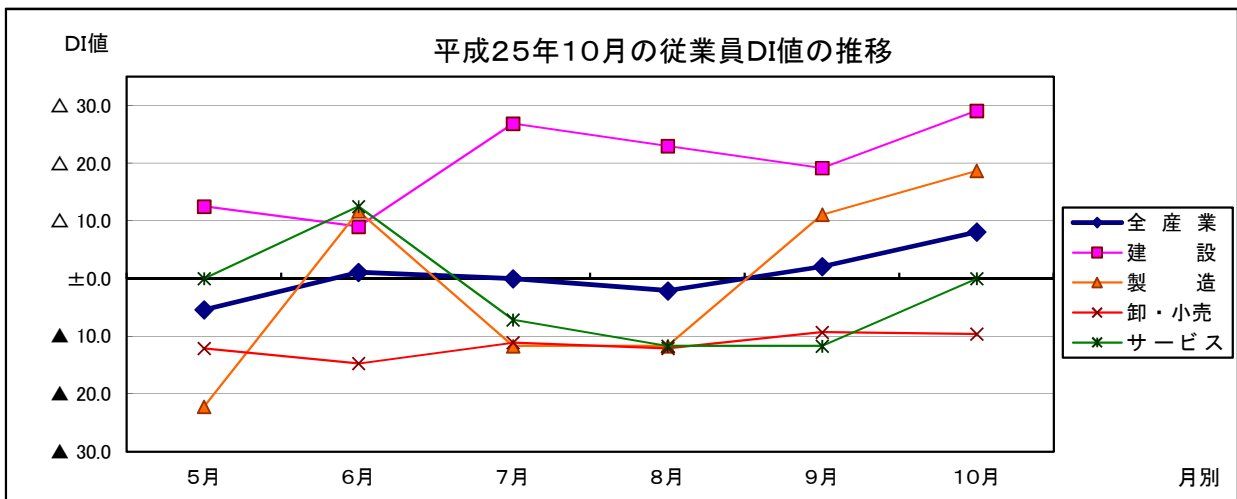
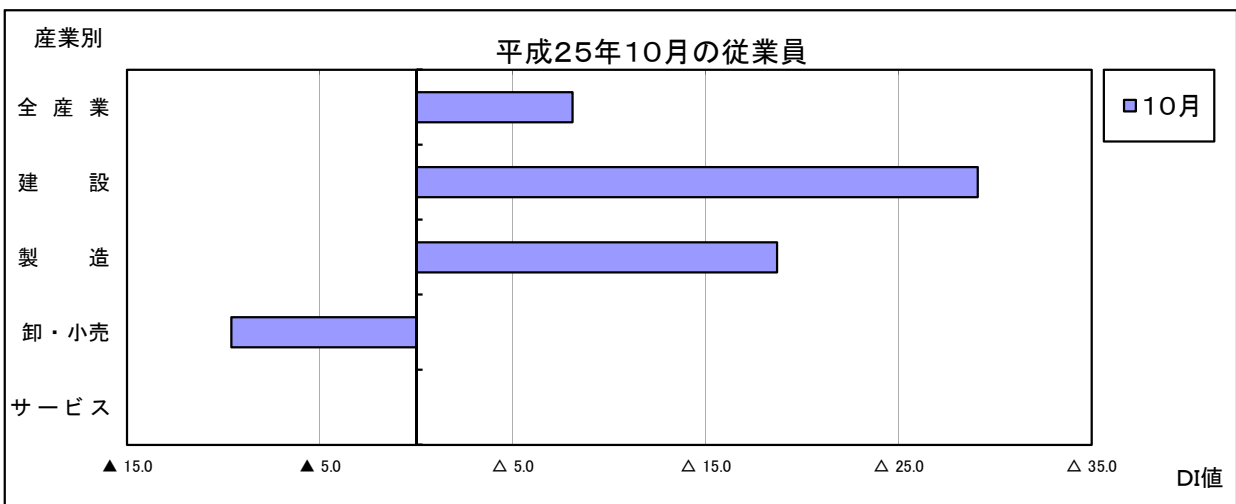
業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大した業種は、幅の大きい順に、建設業△29.1(同△19.2)、製造業△18.7(同△11.1)である。マイナスからプラスに転じた業種は、サービス業±0.0(同▲11.7)である。マイナス幅が拡大した業種は、卸小売業▲9.6(同▲9.3)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、△9.3(前月水準△9.6)となり、プラス幅が0.3ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、製造業△12.5(同△5.5)、サービス業△6.6(同±0.0)、建設業△33.3(同△30.7)である。プラスからマイナスに転じる見通しの業種は、卸小売業▲9.6(同±0.0)である。

平成25年10月の従業員DI値(前年同月比)の推移

	平成25年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲5.4	△1.1	±0.0	▲2.1	△2.1	△8.1	△9.3(△9.6)
建設	△12.5	△9.0	△26.9	△23.0	△19.2	△29.1	△33.3(△30.7)
製造	▲22.2	△11.7	▲11.7	▲11.7	△11.1	△18.7	△12.5(△5.5)
卸・小売	▲12.1	▲14.7	▲11.1	▲12.1	▲9.3	▲9.6	▲9.6(±0.0)
サービス	±0.0	△12.5	▲7.1	▲11.7	▲11.7	±0.0	△6.6(±0.0)



【平成25年10月の資金繰りについての状況】

○ 10月の全産業計のDI値(前年同月比ベース、以下同じ)は、▲11.6(前月水準▲15.0)となり、マイナス幅が3.4ポイント縮小した。

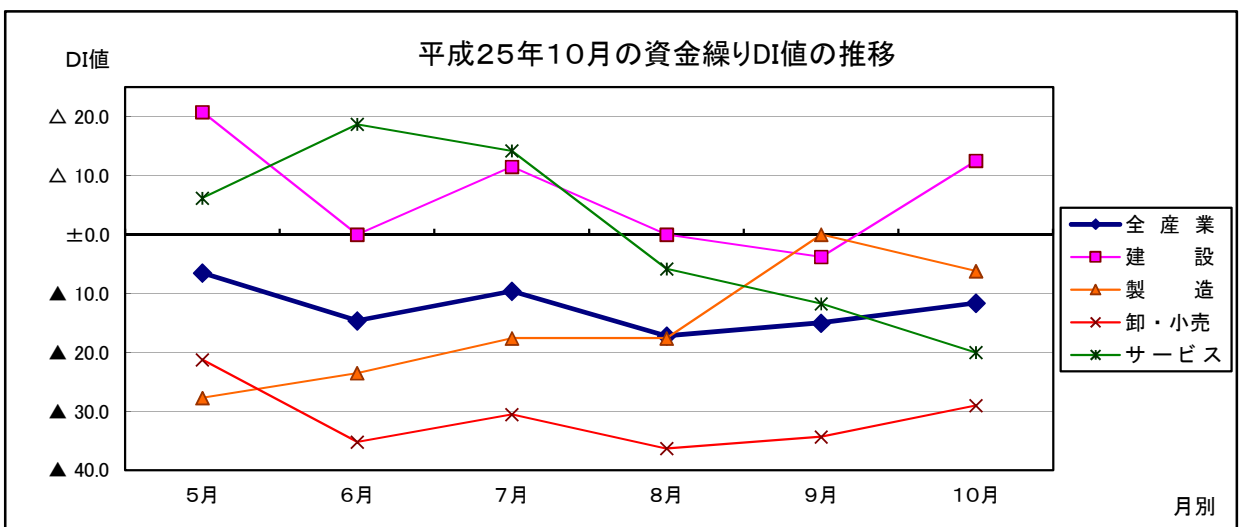
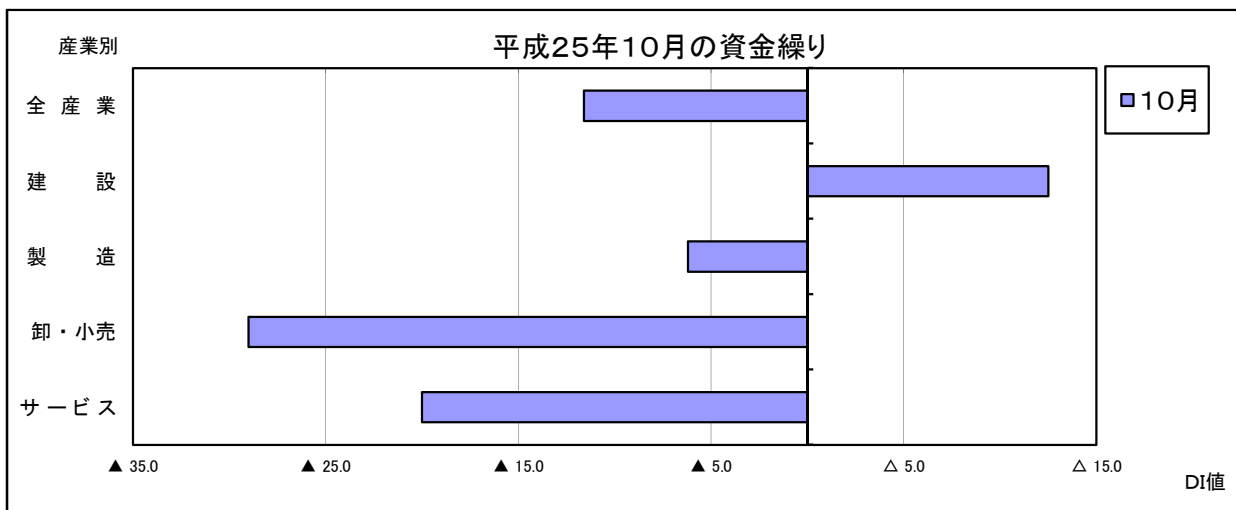
業種別では、前月水準と比べて、マイナスからプラスに転じた業種は、建設業△12.5(同▲3.8)である。マイナス幅が縮小した業種は、卸小売業▲29.0(同▲34.3)である。プラスからマイナスに転じた業種は、製造業▲6.2(同±0.0)である。マイナス幅が拡大した業種は、サービス業▲20.0(同▲11.7)である。

○ 向こう3ヶ月(11月から1月)の先行き見通しについては、全産業では、▲2.3(前月水準▲7.5)となり、マイナス幅が5.2ポイント縮小する見通しである。

業種別では、前月水準と比べて、プラス幅が拡大する見通しの業種は、幅の大きい順に、建設業△12.5(同△3.8)、サービス業△6.6(同△5.8)である。マイナスからプラスに転じる見通しの業種は、製造業△6.2(同▲11.1)である。マイナス幅が拡大する見通しの業種は、卸小売業▲22.5(同▲21.8)である。

平成25年10月の資金繰りDI値(前年同月比)の推移

	平成25年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11月~1月(10月~12月)
全産業	▲6.5	▲14.6	▲9.6	▲17.2	▲15.0	▲11.6	▲2.3(▲7.5)
建設	△20.8	±0.0	△11.5	±0.0	▲3.8	△12.5	△12.5(△3.8)
製造	▲27.7	▲23.5	▲17.6	▲17.6	±0.0	▲6.2	△6.2(▲11.1)
卸・小売	▲21.2	▲35.2	▲30.5	▲36.3	▲34.3	▲29.0	▲22.5(▲21.8)
サービス	△6.2	△18.7	△14.2	▲5.8	▲11.7	▲20.0	△6.6(△5.8)



【DI値集計表】

	売上高(受注・出荷)		採算		仕入単価		従業員	
	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 5.8	△ 5.8	▲ 17.4	▲ 12.7	▲ 50.0	▲ 39.5	△ 8.1	△ 9.3
建設	△ 45.8	△ 37.5	△ 16.6	△ 8.3	▲ 41.6	▲ 37.5	△ 29.1	△ 33.3
製造	▲ 6.2	△ 6.2	▲ 18.7	▲ 6.2	▲ 50.0	▲ 31.2	△ 18.7	△ 12.5
卸・小売	▲ 35.4	▲ 22.5	▲ 41.9	▲ 38.7	▲ 61.2	▲ 48.3	▲ 9.6	▲ 9.6
サービス	▲ 26.6	△ 13.3	▲ 20.0	±0.0	▲ 40.0	▲ 33.3	±0.0	△ 6.6

	業況		資金繰り	
	前年比	先行き	前年比	先行き
全業種	▲ 12.7	▲ 3.4	▲ 11.6	▲ 2.3
建設	△ 25.0	△ 25.0	△ 12.5	△ 12.5
製造	±0.0	△ 12.5	▲ 6.2	△ 6.2
卸・小売	▲ 41.9	▲ 32.2	▲ 29.0	▲ 22.5
サービス	▲ 26.6	▲ 6.6	▲ 20.0	△ 6.6

【平成25年10月の業種別業界内トピックス】

業種別	概況		業種
建設業	リフォームも来年3月までを見据えて、受注が順調にきている。(消費税の関係)	消費税	一般土木建築工事業
	消費税増税のため、かけ込み受注増加。人手不足の不安あり。	消費税 かけ込み受注 受注増加 人手不足	管工事業
	いまだ混沌としている。通常仕上げ業者は春が仕事が少ないが、昨年は10月が少なかった為、対前年比の売り上げは増加している。特に今年が良いという意味ではない。	売上増加 平年並み	石工れんがタイルブロック工事業
	小口ではあるが仕事量は増加してきた。景気好転はどの企業も末端の経営努力によるものと思う。アベノミクスや政策の影響が出たとは考えにくい。	受注増加 経営努力 アベノミクス	電気工事業
	消費税増税前の駆け込み受注が増えている。特に関東近郊のマンション等の大規模修繕工事が非常に多く、塗装・防水の材料メーカーも製造が間に合わないと言っている。また、足場材や建築作業員がマンション工事に取られ、受注があっても工事が出来ない可能性が出てくる。	受注増加 消費税 大規模修繕工事 かけ込み受注 人手不足	塗装工事業
	消費税8%が決まってから、かけ込み需要なのか注文が増加。来月の4月以降の事を考える不安になりますが、今の仕事をひとつひとつ丁寧にこなしていけるよう、従業員全員で取り組みたいです。	受注増加 消費税 かけ込み受注 消費税の反動	内装工事業
	従業員・作業員不足なので、今後職人不足で大変になりそう。	人手不足	その他の職別工事業
製造業	住宅業界(特に町場工務店)は長く不況が続いていた為にかけ込み(消費税)の需要が多くなったとしても、協力業者が少なくなってしまっている今、現状に合せ受注高を喜んでいる事も出来ず大変難しい問題になっています。物売りでなく生産・施工全面の会社では、急な高受注は意味がなく、又、来年の4月からの消費税8%の落ち込みが心配です。コツコツやって来た会社にとって高受注はかえって迷惑に感じます。	消費税の反動 かけ込み受注 人手不足 消費税	一般土木建築工事業
	福島原発関係の案件が増えてきた。原料調達に苦慮している。人出不足もある。	福島原発 原料調達に苦慮 人手不足	特殊産業用機械
	急いでいたはずがスローダウンしたり、諦めかけていた件が急浮上したり、納入間近に仕様追加があったり、とにかく変化が激しい。ユーザー自身が競争激化の中、市場要求そのものも急変しているものと思われる。消費税アップ前の駆け込み需要を見込むべきか否か、判断が難しいところがある。	業況の変化 消費税 かけ込み受注	その他の機械・同部品製造業
	9月新発売商品があり、前年比売上大幅アップ	新商品発売 売上増加	酒類製造業
百貨店	アベノミクスによる楽観的経済状況も実質的には厳しく、今までの方便では通用しない。個に力が付かず、零細企業は身を小さくしてこの冬を乗り切り、進む方向を見極める時期だと思う。	アベノミクス 零細企業	印刷業
	序盤は開店40周年記念の仕掛けが奏功し好調に推移も。気温の上昇もあり、ジャケット、コートなど重衣料が低迷。中盤以降は台風影響・悪天候により動員苦戦。高額品については宝飾・時計・美術工芸品などが消費税増税決定影響により動きが活発になってきた。	イベント好調 天候の影響 重衣料低迷 消費税	百貨店
	隣接町会に大型ショッピングセンターが12月に開店する為、当商店会では戦々恐々である。また市内でも出店していた婦人服チェーン店が倒産したりと業界全体が冷え込んでいる。秋物は当社では早くもセールで処分した。利益率は低下。	大型店開店 同業者倒産 秋物処分セール 利益率低下	婦人・子供服小売業

【平成25年10月の業種別業界内トピックス】

卸小売業	10月度初旬は、悪天候だったこともあり、低調な出足となった。昨年3日間開催したキャンペーンは今年5日(土)6日(日)の2日間に縮小したものの、2日間累計対比では2桁伸長し、中旬までは前年を上回る推移となった。15日、16日は台風26号の影響により大きく落ち込みをみせたものの、16日から大型イベントとして百貨店「秋の大北海道展」を開催、専門店への回遊が図れたほか、朝夕の気温低下も後押ししブーツやアウターが動き盛り返しをみせた。25日、26日も台風影響から苦戦が予想されるが、月末に掛けても百貨店との回遊を強化し売上に繋げていく。	天候の影響 キャンペーン イベント 秋物好調	その他の各種商品小売業
	台風等、悪天候が多く客足に響いた。 仕入れ原価の上昇は続いている。悪天候の影響もあり、客数は減少しているが、買い上げ点数のアップで売り上げはなんとか昨年を保っている状況である。	天候の影響 仕入れ価格上昇 天候の影響 客数減少 売上前年並み	その他の各種商品小売業 各種食料品小売業
	年末のイベントに向けての期待感が薄い。前年の売上水準を保つよう努める。	年末イベント 期待薄	菓子・パン小売業
	地域の住民の高齢化により商店街の様態は大変様変わりし商店街も淋しくなった。商店街近くには大型店が多く出店して若者は大型店のみで生活している有様で、昔からの商店は閉店となっている。イベントのやりようもなく商業者の店も少なく経営者に若者も少ない。苦労して景気が良くなるのを待っている。	住民の高齢化 大型店出店 商業者の減少 景気上昇に期待	食肉小売業
	客数は微増、単価若干落ち、売上は前年並み。天候不順の影響もあった。	客数微増 単価減少 売上前年並み 天候の影響	その他の各種商品小売業
	天候の不順(台風)による、店売りの売上減が多少あり。	天候の影響 売上の減少	菓子・パン小売業
	今月は台風の影響が青果物を直撃している品目があり、ほうれん草、小松菜など葉物類が品薄となり、入荷が減少し、価格が高騰しています。しばらく続くものと思われませんが、全国からの集荷を図り安定供給してまいります。食欲の秋、いろんなイベントなど多いところで卸として努力してまいります。	天候の影響 葉物類品薄 価格高騰	食料・飲料卸売業
	販売量の低下と仕入れ価格高騰のあおりを受け、9月の月決算は大幅赤字とたたき落とされた。仕入れを注意深く目を通しながら戦略を立てているが、どこからみても厳しい状況下にある。	販売量低下 仕入れ価格高騰 大幅赤字 仕入れを注視 厳しい状況	燃料小売業
原油高騰はガソリン代・資材の値上がり。天候不良は客足減少。年末に向けて厳しい商戦になりそうです。	仕入れ価格上昇 天候の影響 年末商戦	花・植木小売業	
サービス業	年末に向けて、11月11日から16日に開業31周年事業の実施、食材の値上がりがあり。客数の減少、客単価下落。宴会等の予算が下がりがつあり。	イベント 仕入れ価格上昇 客単価下落	酒場・ビヤホール
	宿泊は柏周辺のホテルがWeb販売の比率が上がり、近隣ホテルの客単価を下げる要因となっているがエリア全体の稼働が伸び売り上げ、収益を維持することが出来た。宴会はカンファレンス(製薬・病院関連)、同窓会、周年行事の獲得により昨年実績を維持。	Web販売 客単価減少 稼働の伸び 収益維持	ホテル
	10月は台風の影響あり苦戦。11月は昨年度並みをキープ(個人・法人共に。国内も海外も。)12月・1月は個人はほぼ前年並みまで来ているが、法人需要の伸びが今ひとつ。個人需要は動いているので法人需要も引っぱられることを期待している。	天候の影響 法人需要停滞 個人需要好調	旅行業
	お客様からの問い合わせは増えています。但し、仕入価額・リフォーム費は上昇しているので、採算は悪化しています。オリンピック効果と常磐線が来年東京駅まで直通運行されるのを期待しています。	問い合わせ増 仕入れ価格上昇 オリンピック 常磐線延伸	不動産管理業
	不動産賃貸業は安定しています。逆に言えば、新しい物件への移動はさけて、ムダな支出はおさえられている感があります。	賃貸安定 経費抑制	不動産賃貸業

【平成25年10月の業種別業界内トピックス】

	<p>駅近賃貸住宅、テナント賃料安定、入居状況良好です。懸念は、光熱費の高騰と消費税の今後の引き上げの影響です。時間貸し駐車場を営しているが打ち止め料金等の価格競争が一部で加熱気味、採算悪化、採算割れの場所も出ている模様。箱物賃貸事業の先行きに見通しが見えないと判断した地主の応急事業の意味合いもある。街への車の利便性は向上するが、町並の景観にはよろしくない。特にセンスのない黄色や赤の原色看板は勘弁していただきたい。</p>	<p>賃貸安定 光熱費上昇 消費税 時間貸し駐車場 価格競争加熱 採算悪化 景観悪化</p>	<p>不動産賃貸・管理業</p>
	<p>業況はマイナス、先行き不安が続いています。年度末追い込み工事受注を期待している。</p>	<p>業況はマイナス 先行き不安 年度末に期待</p>	<p>ソフトウェア業</p>

◎消費税

- ・ リフォームも来年3月までを見据えて、受注が順調に来ている。(消費税の関係)
- ・ 消費税増税のため、かけ込み受注増加。
- ・ 消費税増税前の駆け込み受注が増えている。
- ・ 消費税8%が決まってから、かけ込み需要なのか注文が増加。
- ・ 住宅業界(特に町場工務店)は長く不況が続いていた為にかけ込み(消費税の)需要が多くなった
- ・ 消費税アップ前の駆け込み需要を見込むべきか否か、判断が難しいところがある。
- ・ 高額品については宝飾・時計・美術工芸品などが消費増税決定影響により動きが活発になってきた。
- ・ 駅近賃貸住宅、テナント賃料安定、入居状況良好です。懸念は、光熱費の高騰と消費税の今後の引き上げの影響です。

◎天候の影響

- ・ 序盤は開店40周年記念の仕掛けが奏功し好調に推移も。気温の上昇もあり、ジャケット、コートなど重衣料が低迷。
- ・ 10月度初旬は、悪天候だったこともあり、低調な出足となった。
- ・ 台風等、悪天候が多く客足に響いた。
- ・ 悪天候の影響もあり、客数は減少しているが、買い上げ点数のアップで売り上げはなんとか昨年を保っている状況である。
- ・ 客数は微増、単価若干落ち、売上げは前年並み。天候不順の影響もあった。
- ・ 天候の不順(台風)による、店売りの売上減が多少あり。
- ・ 今月は台風の影響が青果物を直撃している品目があり、ほうれん草、小松菜など葉物類が品薄となり、入荷が減少し、価格が高騰しています。
- ・ 天候不良は客足減少。年末に向けて厳しい商戦になりそうです。

◎人手不足






- ・ 人手不足の不安あり。
- ・ 建築作業員がマンション工事にとられ、受注があっても工事が出来ない可能性が出てくる。
- ・ 従業員・作業員不足なので、今後職人不足で大変になりそう。
- ・ 住宅業界(特に町場工務店)は長く不況が続いていた為にかけ込み(消費税の)需要が多くなったとしても、協力業者が少なくなっている今、現状に合せ受注高を喜んでいる事も出来ず大変難しい問題になっています。











平成25年10月CCI-LOBOとの比較











- 【業況DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲12.7に対し、「CCI-LOBO」が▲11.9で柏の方がマイナス幅が0.8ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、製造業で、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業、サービス業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【売上DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲5.8に対し、「CCI-LOBO」が▲6.3で、柏の方がマイナス幅が0.5ポイント小さい。「柏の景気」が良い業種は建設業、製造業で、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業、サービス業で、いずれも10ポイント以上悪い。
- 【採算DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲17.4に対し、「CCI-LOBO」が▲17.7で、柏のほうがマイナス幅が0.3ポイント小さい。「柏の景気」が良い業種は建設業、製造業、サービス業で、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業で、10ポイント以上悪い。
- 【仕入単価DI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲50.0に対し、「CCI-LOBO」が▲47.6で、柏の方がマイナス幅が2.4ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、サービス業で、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は製造業、卸小売業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【従業員DI】 全産業合計では、「柏の景気」が△8.1に対し、「CCI-LOBO」が△9.3で、柏の方がプラス幅が1.2ポイント小さい。「柏の景気」の方が良い業種は建設業、製造業で、製造業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業、サービス業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。
- 【資金繰りDI】 全産業合計では、「柏の景気」が▲11.6に対し、「CCI-LOBO」が▲10.0で、柏の方がマイナス幅が1.6ポイント大きい。「柏の景気」の方が良い業種は、建設業、製造業で、建設業は10ポイント以上良い。「柏の景気」の方が悪い業種は卸小売業、サービス業で、卸小売業は10ポイント以上悪い。











平成25年10月の木の景気天気図











木の景気情報と全国CCI-LOBOとの比較











景気天気図					
	特に好調 DI ≥ 50	好調 50 > DI ≥ 25	まあまあ 25 > DI ≥ 0	不振 0 > DI ≥ ▲25	極めて不振 ▲25 > DI











業況DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 12.7	 △ 25.0	 ±0.0	 ▲ 41.9	 ▲ 26.6
CCI-LOBO	 ▲ 11.9	 18.2	 ▲ 13.7	 ▲ 22.8	 ▲ 18.4

売上DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 5.8	 △ 45.8	 ▲ 6.2	 ▲ 35.4	 ▲ 26.6
CCI-LOBO	 ▲ 6.3	 25.7	 ▲ 6.7	 ▲ 25.1	 ▲ 11.5

採算DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 17.4	 △ 16.6	 ▲ 18.7	 ▲ 41.9	 ▲ 20.0
CCI-LOBO	 ▲ 17.7	 1.6	 ▲ 19.4	 ▲ 24.6	 ▲ 22.8

仕入単価DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 50.0	 ▲ 41.6	 ▲ 50.0	 ▲ 61.2	 ▲ 40.0
CCI-LOBO	 ▲ 47.6	 ▲ 59.9	 ▲ 46.9	 ▲ 43.9	 ▲ 46.1

従業員DI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 △ 8.1	 △ 29.1	 △ 18.7	 ▲ 9.6	 ±0.0
CCI-LOBO	 △ 9.3	 △ 25.9	 △ 5.4	 △ 7.4	 △ 7.5

資金繰りDI	全産業	建設	製造	卸小売	サービス
木の景気	 ▲ 11.6	 △ 12.5	 ▲ 6.2	 ▲ 29.0	 ▲ 20.0
CCI-LOBO	 ▲ 10.0	 ▲ 1.2	 ▲ 10.0	 ▲ 13.3	 ▲ 13.3

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上良い項目

 は「木の景気」の方が、10ポイント以上悪い項目

CCI - LOBO

商工会議所早期景気観測(10月速報)

調査期間：平成25年10月16日～22日

調査対象：全国の417商工会議所が3127業種組合等にヒアリング調査を実施

全国の業況
業況DIは、改善。業種には
らつきがみられるも、回復基
調が続く

10月の全産業合計の業況DIは、▲11.9と、前月から+3.2ポイントの改善。建設業や自動車関連・住宅関連の製造業などで売上が好調なほか、個人消費は都市部を中心に底堅く、台湾や東南アジアをはじめとする外国人観光客も増加傾向にあるなど、回復基調が続いており、中小企業にも徐々に景気回復の実感が及びつつある。他方で、仕入価格や燃料費・電力料金などのコスト負担が増加する中、収益改善が遅れている企業も多く、業種によって、景況感にはばらつきがみられる。

先行きについては、先行き見通しDIが▲10.4(今月比+1.5ポイント)と、改善する見込み。建設業や自動車関連をはじめとする製造業の業績改善に加え、小売業でも消費税引き上げ前の駆け込み需要本格化が期待されることなどから、回復基調は続く見通し。一方で、仕入価格や電力料金などのコスト増が続く中、転嫁が困難

な中小企業からは、先行きに対して慎重にならざるを得ないとの声が聞かれる。

産業別にみると、今月の業況DIは前月に比べ、サービス業で悪化、その他の4業種で改善した。

○各業種から寄せられた特徴的なコメントは以下のとおり。

【建設業】「住宅関連の受注は予想を上回っているが、資材価格の高騰により、利益が伴わない」(一般工事業)、「住宅投資や公共工事の増加により、受注量は例年に比べて2〜3割増となっている」(建築工事業)、「施工単価の見直しが進み、利益率が改善している」(設備工事業)

【製造業】「贈答用を中心に売上が伸びており、年末にかけて増加傾向が続く見込み」(酒類製造業)、「自動車向けを中心に売上が好調。消費

税引き上げを控え、自動車関連の取引先で一層の増産が見込まれ、先行きも期待できる」(ばね製造業)、「受注単価が改善しつつあり、業況は好転。他方で、来年4月以降

の受注確保の見通しがつかない」(農業用機械製造業) 車部品製造業

【卸売業】「仕入価格上昇に伴い、取引先との価格交渉が続いているが難航。商品の納入に遅れが生じている」(繊維品卸売業)、「秋の観光シーズン到来により、観光地の飲食・宿泊業向けの受注増が見込まれる」(農産物卸売業)、「小麦価格が上昇しているが、転嫁が進まず、収益を圧迫」(食料品卸売業)

【小売業】「クリスマスや年末向け商材の予約を開始。高価格帯の商品を強化しており、売上増が期待できる」(百貨店)、「台風の影響により、来店客数が少なく、売上が大きく落ち込んだ」(商店街)、「10月に入っても気温の高い日が続く、秋物・冬物商品の動きが鈍かった」(衣料品販売店)

【サービス業】「客単価が上昇しているほか、ブライダル関係の利用も増加。11月以降は、首都圏を中心に観光客の利用が増える見込み」(飲食店)、「夏の猛暑や台風の影響により、野菜など食材の高値が続いており、厳しい状

況」(旅館業)、「最低賃金の引き上げに伴い、従業員の賃金改定を実施。売上が伸び悩む中、収益の圧迫が見込まれる」(ビルメンテナンス業)

全国・産業別業況DIの推移

	全産業	建設	製造	卸売	小売	サービス
5月	▲17.1	1.6	▲20.7	▲20.4	▲29.1	▲12.8
6月	▲17.3	0.8	▲19.6	▲29.3	▲26.4	▲13.5
7月	▲14.1	6	▲15.8	▲20.7	▲22.8	▲14.4
8月	▲15.7	3.9	▲20.7	▲26.8	▲25.8	▲10.2
9月	▲15.1	4.1	▲16.2	▲20.7	▲25.1	▲14.7
10月	▲11.9	18.2	▲13.7	▲17.5	▲22.8	▲18.4
見通し	▲10.4	10.7	▲12.7	▲10.5	▲16.4	▲17.0

「見通し」は当月水準と比較した向こう3ヶ月の先行き見通しDI